

1 学期の反省と対策

1 基礎学力の向上

(1) 基礎学力の基礎づくり

気づき・考え・行動し・生かす習慣化に取り組んだか。
「三点固定運動」の定着は図れたか。
チャイムによる開始・終了する授業を実践したか。

- ・ 常に気づき・考え・行動し・生かすということを児童に話し、意識付けをした。
- ・ チャイムによる開始は、だいたいできてきたが、終わりが長引いてしまったことがあった。
- ・ 気づき、行動できたことを、その場でほめ、習慣化に努めた。
- ・ 週明けに、特に寝た時刻の確認をして、生活リズムについての話をし、三点固定運動の定着に努めた。
- ・ 「目・気・心」で、日頃の行いを振り返らせることができた。

(2) 基礎基本の定着と活用能力の育成

少人数複式授業の効果的な授業のあり方を追及したか。
めりはりのある熊本型授業の展開に努めたか。
全国学力テスト・ゆうチャレンジ問題の意図・結果を授業に生かしたか。

- ・ ゆうチャレンジを意識した問題を積極的に取り入れた。
- ・ しっかり考えさせる時間を確保した。
- ・ 自分一人で学習する時間の確保に努め、徹底指導と能動型学習の「めりはり」があるようにした。
- ・ 新しい定義が出てくる時間などは、徹底指導に時間を要するので、もう一方の学年は練習問題を多めに準備しておく（能動型学習を多めに）等の工夫を行った。

(3) 個に応じた教育活動の充実

児童の理解度に応じたステップ学習に取り組んだか。
補充個人指導（トライタイム）の工夫充実に努めたか。
公開に耐えられる適切な評価補助簿の記帳に努めたか。

- ・ 一人一人に応じたプリントを作成し、理解度を高めながら学習に取り組ませた。
- ・ 導入時の問題を学年ごとの習熟度に合わせて提示し、確実に理解できるようにさせた。
- ・ 必要に応じ、前学年の内容の問題から取り組ませるなどして、一人一人の理解度に合わせた学習を心がけた。

2 豊かな心の育成

(1) 人権教育の充実

本校の人権課題の把握に努め、共有化を図ったか。
自他ともに大切な存在を認める取組ができたか。
差別意識の解消に向けた取組を進めたか。

- ・ あったかハートの木を作成し、言葉かけをした。
- ・ 校内で差別的な印象を受ける発言があった時は、すぐにその言葉を取り上げ、指導し、差別意識の解消に努めた。
- ・ 日常会話の中で児童の様子を知らせ合い、学級の枠を越えて、情報を共有するよう努めた。

(2) 道徳の時間の充実

「展開の大要」を活用した授業を展開したか。
実態把握に努め、適切な教材で心に響く展開ができたか。
他領域と連携した体験的な道徳教育を推進したか。

- ・ 常に展開の大要を活用し、本音を出し合える道徳の授業に取り組んだ。
- ・ 授業後にすぐ実践させ、自分の体験と内容がつながるように努めた。
- ・ 学校行事や生活の中で体験したことをなるべく詳しく思い出させてから副読本に入るようにし、登場人物への共感を深められるようにした。

(3) 読書活動の推進

目標冊数や毎日読書に取り組みさせたか。
学校図書館を利活用した学習活動を推進したか。
読書の重要性を伝え、家庭での読書を推進できたか。

- ・ 家庭で毎日、15分以上読書をする習慣ができてきた。
- ・ 読書記録を残し、一冊でも多く本を読むよう声かけをした。
- ・ 親子読書カードを作り、保護者に協力してもらった。
- ・ 小学生の頃、読書量が少なく、人の気持ちを想像することが苦手だった自分の体験を話し、読書の大切さを訴えた。

(4) ふるさと教育の充実

地域の人材・自然・文化にかかわる取組ができたか。
児童による「花一杯プランター100」は推進できたか。
学校版環境ISOの積極的な取組ができたか。

- ・ ゴミを減らすために裏紙をできるだけ利用した。
- ・ 総合的な学習の時間に草花・樹木などを調べた。
- ・ 生活科の単元と関連させ、花の栽培をした。
- ・ 平家の里で高木出さんの話を聞いてよかった。子どもたちは知っているようで知らなかったことが新たに分かったり、ちょうど6年生で学習していた源平合戦の理解が深まったりした。
- ・ 「ふるさと五家荘たっぷり満喫事業」の取組も計画的に進められ、特に文化面での話が聞いてよかった。

3 健やかな心身の育成

(1) 学校保健体育の充実

新体力テスト結果を基にした体力強化策に取り組んだか。
汗をかく運動量を確保した体育の授業に取り組んだか。
自ら運動に親しむ業間体育・部活動を推進したか。

- ・ にぎにぎチャレンジに挑戦させ握力がついた。
- ・ 部活や八小タイムなど汗をかくようなメニューを児童と話し合いながら進めた。
- ・ 「にぎにぎ」に続き「ランラン」も目標に向かって継続して取り組ませたい。視覚的に捉えられる個人票は意欲につながっている。
- ・ 子どもたちは精一杯汗をかきながら、体育以外の時間でも運動に親しんでいる。
- ・ 50m走の記録表は、自分の目標が一目で分かり、子どもの意欲につながると思う。

(2) 学校安全・食育の充実

危険を予知し、回避する態度と実践力を育てたか。
 「いかのおすし」を理解させ、不審者対策を講じたか。
 整理整頓に心がけ、整然とした環境作りに心がけたか。
 安全点検の確実な実施と改善に取り組んだか。
 一人一場の無言清掃を通して、働く大切さを学ばせたか。
 保護者への食育の重要性を理解させ、実践を図ったか。
 楽しい給食に心がけ、偏食指導に取り組んだか。

- ・ 危険を予知するよう、いろいろな場面で考えさせた。
- ・ 自分で整理整頓ができるように、自分のプリントは自分で綴じる時間をつくった。
- ・ 教室の整理整頓は、今ひとつ雑然としていた。
- ・ 一人一場に細分化したことで責任感が増した。まだ私語が多めなので2学期からは徹底させたい。
- ・ 薬物乱用防止教室、防犯教室と低学年の子どもたちには難しかったかもしれないが、真剣に耳を傾けていた。
- ・ 職員室もそうだが、多くの場所の整理整頓の必要がある。夏休み等、長期休業期間中に取り組みたい。

(3) 心の健康の推進

立ち止まって気持ちのよい挨拶ができる児童を育てたか。
 授業以外で、毎日クラスの児童一人一人に語りかけたか。
 目配り・気配り・心配りを意識して実践させたか。
 ソーシャルスキル学習を積極的に取り入れたか。

- ・ 気持ちの良い挨拶ができていないときはやり直しをさせた。
- ・ 毎朝、必ず会話をする時間をつくった。
- ・ 自己診断表を作成し、挨拶の様子についても毎日振り返らせている。「学校外でできるか」＝「本当の挨拶が身についたか」を夏休み前に指導した。

4 信頼される学校づくり

(1) くまもとの教職員像の追及

児童一人一人に愛情を持って教育活動に取り組んだか。
 組織の一員を自覚して課題解決に取り組んだか。
 保護者や地域を意識して、積極的に関わったか。
 法令等に抵触しないような言動に心がけたか。

- ・ 児童をほめ、励ましながら教育活動に取り組んだ。
- ・ できるだけ学校の様子を保護者に伝えるように努力した。

- ・ 保護者に対する用件がある場合は、できる限り家庭訪問をし、直接話すようにした。
- ・ まずは「楽しい教室づくり」。そして「達成感を味わうための適度なハードルの設定」。さらに「達成した時の賞賛」を心がけた。
- ・ 参加できる地域行事には参加した。夏休み中のものも進んで参加したい。